





# 審査結果報告書

2023年 1月 20日

主査	氏名	加藤 一喜	
副査	氏名	岡本浩嗣	
副査	氏名	石倉 健司	
副査	氏名	小川 元之	

1. 申請者氏名 : 大西 庸子
2. 論文テーマ : Transversus abdominis plane block provides postoperative analgesic effects after cesarean section: Additional analgesia to epidural morphine alone  
(帝王切開術後鎮痛としての腹横筋膜面ブロックの有効性)

### 3. 論文審査結果 :

本研究では、帝王切開術後に、内腹斜筋と腹横筋の間に位置する腹横筋筋膜に局所麻酔薬を投与する腹横筋膜面ブロック (Transversus abdominis plane block: TAPブロック) の有用性を検討している。TAPブロック施行群 54 例と、TAPブロックを行わなかった対照群 40 例とを比較した。両群共に手術終了直前の硬膜外モルヒネ投与および患者制御静脈内投与鎮痛 (PCIA) を用いた塩酸モルヒネ投与により術後鎮痛コントロールを図っている。術後、PCIA を用いた初回モルヒネ投与までの時間が TAP ブロック施行群では対照群と比べて有意に延長している。また、術後 24 時間以内のモルヒネ総投与量が TAP ブロック施行群では対照群と比べて有意に少なかった。TAP ブロックに伴う局所麻酔薬中毒・局所感染・出血などの合併症は認めず、TAP ブロック施行群全例において安全に施行された。以上より、申請者は、硬膜外モルヒネ投与と併用した TAP ブロックは、帝王切開術後鎮痛として有効であると結論付けている。

学位審査においては、副査の小児科 石倉健司 教授、麻酔科 岡本浩嗣 教授、解剖学 小川元之 教授から適格で示唆に富んだ質問およびコメントがあり、活発な議論が交わされた。本研究は診療の場においても臨床医にとって役立つ内容であり、論文博士学位を取得するに十分なだけの価値があるものと評価された。